

## 第1回6月阪大本番レベル模試地理B 採点基準

### 第1回6月阪大本番レベル模試地理B 採点基準

#### 1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

#### 2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

#### 3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1点減点。
- ③ 指定用語不使用は1点減点。
- ④ 字数オーバーは1点減点。

\*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

#### 4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

#### 5 設問別加点基準

- 1) \_\_\_\_\_部分は必須キーワードであり，この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の…として)」は，加点ポイント①を正解していなくても，加点ポイント②に該当すれば加点する。

第1回6月阪大本番レベル模試地理B 採点基準

I

問1 加点ポイント

- ① 土壌のやせた氷食地 →1点
- ② 穀物栽培には適さない →1点
- ③ 冷涼湿潤で牧草と乳牛は育てやすい →2点
- ④ 牛乳や乳製品の需要が大きいアメリカ合衆国北東部沿岸のメガロポリスやシカゴ等の大消費地にも近い →3点
- ⑤ 酪農が発達している →3点

問2 加点ポイント

- ① ケニアとエチオピアは標高が高く →4点
- ② 低緯度ながらヨーロッパや東アジアのようなバラ栽培に適する気温が一年中続く →4点  
「バラ栽培に適する常春の気候である」なども可
- ③ ドバイのハブ空港を拠点とする航空網の発達で、新鮮なバラを迅速かつ頻繁にヨーロッパや東アジアの都市に供給できるようになった →4点
- ④ 当初、アフリカ東部の花卉栽培はイギリスとの経済的結びつきが強いケニアで発展したが →4点
- ⑤ 近年はより人件費の安いエチオピアの成長が著しい →4点

問3 加点ポイント

- ① 3カ国とも高温多雨だが収穫期には乾燥する →4点
- ② サバナ気候が分布するため、同気候区とその周辺でサトウキビ農業が発達した →4点
- ③ ブラジルとインドは人口増加と経済成長を背景に砂糖需要が増加し、サトウキビの作付が増えた →4点
- ④ バイオエタノールの原料としての需要も大きいブラジルの増産は特に著しい →4点
- ⑤ キューバは、かつて同じ社会主義国のソ連への砂糖供給国であったが、ソ連崩壊で輸出が激減し、作付を減らした →4点

第1回6月阪大本番レベル模試地理B 採点基準

Ⅱ

問1 加点ポイント

- ①EUからの観光客は東洋ならではの文化や日本の歴史に触れることを日本観光に求める →3点
- ②寺社や史跡の多い京都の宿泊者が大阪を上回る →3点
- ③鎌倉のある神奈川 →2点
- ④原爆が投下された広島 →2点
- ⑤白川郷や城下町高山を持つ岐阜（も好んで宿泊地とされる） →2点
- ⑥ASEANの人々は、先進国である日本の現代的な文化を享受すべく →3点
- ⑦有名なテーマパークを持つ大阪や千葉を好んで宿泊地とする →3点
- ⑧高温多雨なASEAN →2点
- ⑨広大な牧場や畑作地、雪景色などの景観を有する北海道 →3点
- ⑩富士山を間近で見られる山梨（にも好んで宿泊する） →2点

問2 加点ポイント

- ①エコツーリズムは大規模なリゾート開発は行わず →2点
- ②地域の自然環境や文化景観を保全し、それを観光資源とする観光振興である →3点
- ③環境保護と地域経済の活性化が両立する持続可能な開発を目的とする →3点
- ③について、環境保護のみに触れたものは2点減点
- ④グリーンツーリズムは農山漁村のありのままの生活を →2点
- ⑤都市住民に体験させる滞在型の観光であり →3点
- ⑥農村漁村の活性化を目指す新たな産業としての性格が強い →3点
- ⑦短い連休に観光客の移動が集中する日本とは異なり →4点
- ⑧ヨーロッパでは、長期の有給休暇を任意の時期に取得することが一般化しているため、グリーンツーリズムの成功事例が多い →5点